

五井先生は今も生きています！

今も生き続ける五井先生のみ教えと「世界平和の祈り」

2012年2月

「世界平和の祈り唯一行」が生まれた

禊体験から得た唱行

「世界人類が平和でありますように」の一行だけをひたすら繰り返し唱える唱行は、五井先生ご自身がなさっていた行法を私が発見し採用したもので、昔の白光真宏会の行事としてやっていたわけではなく、私が白光真宏会の講師に教わったのでもありません。

日本の伝統的な宗教では、神道でも仏教でも、短い祈り言を繰り返し唱える行法というのがあります。これは日本だけではなく、中国やインドの宗教でもあります。長い経文を唱えるよりも、短い祈り言を繰り返し唱えた方が、雑念の入り込む隙がなく、深い統一に入れるからで、種々の行法が試されているうちに、「やっぱり、この単純な方法が一番よい」と体験的実証的に分かってきたのです。

昌美先生が富士山に初めて登山した時、私が一緒に同行したことは前にも述べましたが、浅間神社を出発して登り始めた時、「世界人類が平和でありますように、世界人類が平和でありますように」と、同行の皆さんに聞こえるように、私一人声に出してお祈りして歩いておりました。すると、私の前後を一緒に歩いていた中澤英雄さんが、『世界人類が平和でありますように』では歩いている時には長くて唱えにくいから、もっと短い五井先生のお名前を唱えたらどうでしょうか？と私に言ってきたのです。私としては「世界人類が平和でありますように」と唱えなかったのですが、その頃は自分の主張を強く述べるよりも相手の意見を立てる性格であったので、「ええ、いいですよ。それじゃ五井先生のお名前を唱えることにしましょう」と、「ごいせんせい」と声に出して唱えることになったのです。それで中澤さんも私と一緒に「ごいせんせい」と唱えるようになり、私たち二人の唱行に見習って、宇宙子科学メンバーも昌美先生も全員「ごいせんせい、ごいせんせい」と声に出して唱えるようになったのです。この時の様子は五井先生がご本に書かれていますが、私たちが「ごいせんせい」と唱えるようになってから、五井先生の霊覚では私たちの統一が急速に深まっていったのがはっきりと判ったそうです。そして、それまで白光真宏会の行事として祈り言を声に出して繰り返し唱える行法はなかったもので、その富士登山の時が「ごいせんせい」と全員で唱える行法の最初の日となったのです。それまでは斉藤秀雄先生が個人的に常に「ごいせんせい」とお呼びして唱えていましたが、その日以降は「ごいせんせい」と唱える行法が白光真宏会の一つの行法として定着し、会員内で広まったのです。

そもそも私が富士登山で「世界人類が平和でありますように」を繰り返し唱えるように

なったのは、大学一年で合氣道部に入っていた私が、合氣道部の慣習で一九会という神道の禊道場に二泊三日の修行に行かされたからでした。その禊修行では、「トホカミエミタメ」という祈り言を正座して三日間（夜は寝ますが）ぶっ続けに大声で唱えるのです。もちろん声は枯れますが、先達に背中を両手で叩かれて大きな声を出さなくてはなりません。座布団を敷いているものの、両足は全く痺れて立てません。トイレに小用に行くと、真っ赤な小便が出てきます。初学と言って初めて修行に入る人は私を含めて6名ほどいましたが、あまりの苦行に途中で一人が逃げて行きました。私は「大学の名誉がかかっているんだぞ」と先輩に釘を刺されていたので、逃げ出したいくても逃げることができず、耐え忍びました。その禊体験で、一つの祈り言を繰り返し唱えるという行法と、その行から生まれてくる神秘的な道力の存在を直観的に知ったのでした。その禊体験を下に、昌美先生との富士登山を前にして、「世界人類が平和でありますように」の一行を繰り返し唱える行を私は一人で行っていたのですが、その行法が五井先生によって明確に「急速に統一が深まる効果的な方法」と認められたのです。「ごいせんせい」は宗教団体の内部における個人的な救いの意味が強く、一宗一派に見られてしまうので、祈りによる世界平和運動として、私は「世界人類が平和でありますように」と唱えることにしました。白光真宏会では、易しい「ごいせんせい」の唱名行だけが五井先生の教えの一つとして今日まで伝わってきているのです。

そうした私の体験から、唯一会の集会において今回初めて「世界人類が平和でありますように」の唱行を伝え、皆さんにも体験していただいたのです。今後も時間があれば、この唱行を皆さんとご一緒に行じてゆきたいと思っております。このように二十四時間「世界人類が平和でありますように」と常に唱えていれば、他の行法をしている暇はありません。他の行法をしているということは、その時間だけ「世界平和の祈り」を祈っていないことになり、世界平和実現がそれだけ遅れるのです。「世界平和の祈り」以外の行法をやって、「何がよいか？」と試行錯誤の時間を費やしている悠長な暇はもうないのです。地球が滅亡するか、真実の平和を得るか、という今なのですから、私たちは「世界平和の祈り」に全霊を挙げて祈らなくてはなりません。「世界平和の祈り」をやらずに他の行法をやっていることは、そのつもりがなくても地球の滅亡に加担していることになるのです。

「世界平和の祈り」は五井先生と神界との約束事で、この祈りをするところに必ず救世の大光明が輝き、自分が救われると共に、世界人類の光明化、大調和に絶大なる力を発揮するのです。「世界平和の祈り」に生命をかけて生きましょう。「世界人類が平和でありますように、世界人類が平和でありますように」と私たちは日々唱えてゆきましょう。それが神界の神々の一番の願いでもあるのです。

「世界平和の祈り」よ、永遠に…

この私自身のホームページを立ち上げる前に、「宗教宗派に把われず、あなたの自由に発言できます」と寛容な方針を述べていたある人のホームページの掲示板の一部を借りて、

私は「〇〇年〇月号白光誌への批評」というふうに、毎月「白光誌批評」をインターネットの掲示板に載せていたことがあるのです。そうしましたら、そのホームページの管理人が私の批判を白光真宏会や昌美先生に対する単なる悪口と解釈して、その人から「森島さんの悪口はインターネットのネチケットに違反する」と度々言われました。「そんなことはない。私の発言は悪口ではない。ネチケットにも違反していない。インターネット上の法律で許可されている許容範囲で、慎重に言葉を選んで発言している。社会的通念から見ても、私の批判には少しも問題がない。批判と悪口は違うのだ。私の批判は昌美先生への愛から出たものである」と懸命に説得したのですが、聞き入れられることなく、ついに掲示板の運営を停止され、私が長い間書きとめた文章を全て消去されてしまったのです。そこで致し方なく自分のホームページを新しく立ち上げることにしたのでした。

私は毎月白光誌を読んで、昌美先生の法話を読んでは、「昌美先生の教えのどこが間違っているのか？ 昌美先生の教えと五井先生の教えはどこが違っているのだろうか？ 昌美先生に対してどのように説明したら五井先生の真実の教えを理解してもらえるだろうか？」と考えているのです。現在の理事長や各理事、各講師の解説も読んで、「なぜ五井先生の教えを理解できないのだろうか？ どのように分かりやすく説明したら五井先生の真実の教えを理解していただくことができるだろうか？」と考えているのです。そしてこの掲示板では、白光真宏会や昌美先生のお名前をなるべく出さないで、私は「白光誌批判」を続けているのです。その月の白光誌の内容と私のここでの法話を同時に読んでいる方々は、「ああ、白光誌のこの箇所について森島先生は批判されているのだな」とお分かりのことと思います。このような愛の在り方もあるのです。先日私がここで書いた「心の法則」の欠陥と「真理宣言法」の欠陥についての法話〔編集者注：次回掲載予定〕も白光誌3月号の内容に対する批判でありまして、比較して読めばよくお分かりのことと思います。「これでも分からぬか？ こんなふうに説明してもまだ分からぬか？ う～ん、では今度はこのように書いてみよう」と色々と表現を変えて、分かりやすく五井先生の真実の教えを書くことに私は努力しているのです。

問題は私の他界した後です。現在は私が「世界平和の祈り」を熱心に説いていますから、私の存在することによって勇気づけられて「世界平和の祈り」をやる人が出てくるわけですが、私が他界ないしは引退したら、また元の木阿弥になって迷ってしまうようでは困ります。ですから、私が他界するまでに何とか一人でも多く五井先生の真実の教えを理解でき、後世に伝えることのできる人を教育したいと私は強く願っています。そして、私の後継者は必ず現れると私は信じております。

質疑応答 1：五井先生に会いに来て下さい！

五井先生はあなたが来られるのを待っています

【ご質問-1】

以前から五井先生のご本を拝読させていただいて、文章から伝わってくる先生の温かさというか、包み込まれるような優しさに惹かれていました。ただ、私が五井先生のみ教えを知ったのは五井先生がお亡くなりになられた後でした。その後、会を引き継いだ昌美先生の著述物は、部分的に「正しい」という気がするのですが、何か違う気がします。人間は分霊であって、「即ち神」ではないと思うのですが・・・。

素人読みで申し訳ありませんが、五井先生は「何かあっても、それは消え行く姿」、昌美先生は「自分が神だから問題はなくなる」と言っている気がします。こんなことを書くと問題がありそうですが、五井先生から昌美先生に代表が変わることで何かが変わってしまったのでしょうか？

【お答え-1】

五井先生の他界後、「会を引き継いだ昌美先生の著述物は、部分的に『正しい』という気がするのですが、何か違う気がします」というあなたのご感想に私も同感です。

正直にご自分のご感想やご意見を述べることは何ら問題ありません。現代の日本は、昔の封建主義や独裁政治の時代とは違い、自由主義の世の中で、悪口や誹謗中傷はもちろんいけませんが、自分の感想の是非々々を述べることは自由です。総理大臣に対して「あの人は総理の資格なんてない」と公の席で発言しても、「天皇陛下なんて必要がない」とテレビで発言しても、警察に逮捕されて牢獄に閉じ込められることはありません。それはその人の意見であり、政府も政治家もその人の思想の自由を束縛することはできません。もし思想の自由を束縛する宗教指導者がいたら、その宗教指導者は真実の宗教者ではなく、独りよがりの独裁主義者と呼ぶべきでしょう。

悪口は、対象とする人を陥れようとする悪意を持った発言であり、批判とは、対象とする人を愛し生かそうとする本心から溢れてくる発言であるのです。あなたのご感想は悪口ではありません。あなたのご感想からは悪意が少しも感じられません。純粹に何が正しいのか、何が真実なのか、真実を追究したいという真心が感じられます。ご遠慮なく、正直にご感想を述べて結構です。

人間は本来は神の分霊であり神の子でありまして、亀の子は亀であるように、神の子もやはり神であると言えないこともないのですが、現実の肉体人間はまだ不完全な点が多く欠陥だらけで、完全円満な神の子とはとても言えるものではありません。それは、現在の人間は本来の神性を顕現する途中の段階におりまして、十分に神性を発揮しえてはいないからなのです。現在の人間は本来の神の分霊の能力をも発現しえていないのですから、まして宇宙を創造した宇宙神と同等の神と見ることはどうしても無理があります。昌美先生の説かれる「我即神也」の教えは「私は神である」という意味ですから、それは理想ではあるのですが、現実の人間はまだ神性を発揮していないし、不完全な人間でありますし、神の子を現してはいないのですから、虚言となってしまうのです。

五井先生は、理想と現実を結ぶように、「悪や病気や不幸などの不完全な姿は消えてゆく姿」と中庸の教えを説いたのですが、昌美先生は五井先生の中庸の教えを理解することができず、「悪や病気や不幸は無い、問題は無い。人間は神である、人間は完全円満であり、出来ないことは無い」と理想に片寄った教えを説いてしまったのです。そして昌美先生ご自身は、「自分の教えは五井先生の教えよりもずっと進んだ高い教えである」と秘かに自慢しているのです。ですから、五井先生の「世界平和の祈り」をやらせず、といっても、やらせないわけにもゆきませんから、表面上は「世界平和の祈り」を伝えながらも、「我即神也の宣言と印こそ究極の真理であり、究極の行である」と、それとなく、ご自分の発案した「我即神也」の方が「世界平和の祈り」よりも一段高い行法であるかのように説き、信徒の皆さんには、ご自分の発案した「我即神也」の行法に重点を置かせるように指導しているのです。

昌美先生が生長の家のように理想（真理）に片寄った教えを説くのも、それなりの存在意義があり、意味のないことではないのですが、いつまでもそのままでは困るので、私が五井先生の真実の教えを解説するようになったのです。昌美先生はついに五井先生の教えを理解できずでした。そのために白光真宏会が変化してしまったのです。宗教団体は指導者によって善くも悪くもなりますし、信徒の心境は指導者次第で高くも低くもなります。指導者が正覚を得ていれば、その信徒たちは安心立命しますし、指導者が迷っていれば、その信徒たちもまた迷います。あなたのご感想の通り、五井先生の教えと昌美先生の教えはまるで異なりますし、正反対とも言えるのです。あなたのご感想は正しいのです。それを「五井先生の教えと昌美先生の教えは全く同一である」と繰り返し主張し宣伝している講師や理事がおりますが、信徒たちをどんなに言いくるめようとしても、それは誤りなのですから、何れその誤りが表面に現れてくることは確かです。五井先生の教えと昌美先生の教えは同一ではありません。

まず唯一会のホームページに書いてある私の文章とこの掲示板の過去ログにある私の文章をお読み下さい。白光真宏会と唯一会の違いがよくお分かりいただけると思います。唯一会は五井先生のみ教えを忠実に継承した会であり、現在の白光真宏会は昌美先生の教えを中心にした団体であることがお分かりいただけることでしょう。現在の白光真宏会の教えが正しいと思えば、その人は白光真宏会で学べばよいし、唯一会が五井先生の教えを正しく継承していると思ったら、唯一会の会員人数がたとえ少なくとも、唯一会に入って学べばよろしいでしょう。行法を比較して、どちらが易しいかと言えば、それは唯一会に決まっています。唯一会では五井先生の教えだけを行ないます。すなわち、「世界平和の祈り」しかやりません。「世界平和の祈り」以外の行法は一切ありません。実に容易で簡単です。そうしたことが分かったら、昌美先生の誤りにいつまでも把われていないで、自分自らが五井先生の教えを率先して実行してゆかねばなりません。

あなたも唯一会に入会されて五井先生の教えを学び直されるとよいでしょう。五井先生の教えが理解できれば、「世界平和の祈り」一念の迷わぬ人となります。五井先生のご本を丹念に読んで、あなたも中庸光明思想の持ち主になって下さい。

唯一会の集会に来れば五井先生の真実の教えと出会うことができます。五井先生の教えを学び、忠実に「世界平和の祈り」だけを実行している唯一会の集会に神体の五井先生が現れないわけがありません。唯一会の集会には神体の五井先生が毎回出現されているのです。もしも五井先生にお会いしたかったら、あなたも唯一会の集会においで下さい。五井先生はあなたの来られるのをお待ちしております。

「世界平和の祈り」に生命を懸けてくれる若者の出現を望む

【ご質問-2】

白光に入会した時、昌美先生の本来のお仕事は宇宙子科学の研究で、白光の会長は本意ではなく、会長職を早く退きたいというお考えをお持ちだとの説明を聞きました。私は、昌美先生が宇宙子研究の研究者というお立場で白光真宏会をまとめているので、五井先生のような暖かさよりも厳しさを感じるのだと思っていました。ただ、宣言やマンダラ行、神人養成課題には違和感を感じていました。

私の「感じ」は間違っただけです。これから過去ログをよく読んでみます。また、唯一会入会を検討したいのですが、どのようにすればよろしいのでしょうか？

【お答え-2】

ありがとうございます。唯一会は私の主宰している会ではありますが、現在は宗教法人ではなく、大学の同好会クラブのような集合体です。集会では会議室を借りるために参加費はかかりますが、唯一会会員となっても会費は無料です。私は五井先生のみ教えを講義し、「世界平和の祈り」をインターネットで広めておりますが、このような唯一会の活動から私は収入を得てはおりません。現在このインターネットでのみ唯一会の会員を募集しておりますが、ハンドルネームではなく、氏名や住所、電話番号、生年月日などを唯一会に登録していただくことで会員になることができます。それ以外は、唯一会の会員となるのに、年齢制限や為すべき課題などの条件はありません。どなたでも入会できます。「世界平和の祈り」にご賛同いただき、ご一緒にお祈りしていただくことは申すまでもありませんが、入会された後も「世界平和の祈り」以外に特別な行法をやらせることはございません。

唯一会の集会では、五井先生のご本をテキストにして毎月一回私が直伝で講義しておりますが、現在の私は50歳〔編集者注：平成24年現在62歳〕でありまして、皆さんに五井先生の教えを直伝できるのは後10年間であると思います。この10年間のうちに五井先生の教えをしっかりと理解した人々を育成することが私の天命です。ですから、若い方々にはできる限り唯一会の集会にご参加いただき、私の他界ないしは引退した後も五井先生の教えを正しく後世に伝えていただきたいと思います。私は「世界平和の祈り」の普及に一生一代の生命を懸けております。「世界平和の祈り」に生命を懸けてくれる若者の出現を望む次第です。

あなたのように常識的な感覚を持ち、誰をも傷つけないように配慮する思いやりを持ち、

礼儀正しく、五井先生の教えを直観的に理解できる方に、ぜひ唯一会の会員になっていただきたいと思います。この唯一会のホームページにある教義の解説とこの掲示板の過去ログをお読みになれば、私の考え方や人物像が大体お分かりいただけると思います。じっくりとお読みになり、よくお考えになって、心からご納得した上でご入会をご決断下さい。私個人としましては、あなたのような方にはぜひ唯一会の会員となっていただきたいと希望しております。ありがとうございました。

あなたの天命が完うされますように

参考：百知は一真実行に及ばず

「森島さんのような方が、なぜ白光真宏会の外で世界平和の祈りを教えるのですか？白光真宏会の中でご指導されたらよろしいではないですか？」と私にお手紙を下された人がいますが、私もそのようにしたかったのです。当初、私は白光真宏会の内部で、白光真宏会会員を対象に「世界平和の祈りを祈る集会を開きたい」と考えておりました。しかし、それを白光真宏会にお願いしたところ断わられてしまったのです。「昌美先生の現在の新しい教えは五井先生のご神示です。光明思想徹底行、我即神也、人即神也、地球世界感謝行などをやらないで、世界平和の祈りだけしかやらない活動は認められません」と言われ、それで仕方なく白光真宏会の外で活動を始めたわけです。白光真宏会の支部、白光真宏会の集会場としても、昌美先生のご指示の通りに動かねばなりません。そこで白光真宏会の指導に束縛されない組織を作ることにしたのです。私としては昌美先生の下で活動したかったのですが、独立して「世界平和の祈り」を広めることが私の天命であったのです。これも神様のご計画であったのでしょう。

現在、白光真宏会の維持会員として長年活動してきた人たちの中で、五井先生の教えと現在の昌美先生の教えを比較して違和感を感じている人がかなり多く存在しています。しかし、そうした違和感を感じていても、周囲に本音を打ち明けることができず、「世界平和の祈り」一本槍で祈るだけの自信も持てないのです。そんな時、唯一会の存在をインターネットで知り、「自分と同じ疑問を持つ人がこれだけ多くいたのか！自分一人だけではなかったのだ。五井先生の教えを継承し、世界平和の祈り一本槍で祈っている人たちが存在していたのか！」と大変感激して下さる方が増えてきております。

五井先生の真実のみ教えを学び、「世界平和の祈り」を祈ることは、皆さんご自身の神性を開発し、現世の運命を改善してゆく効果があるわけですが、唯一会の会員が増えてゆきますと、「世界平和の祈りだけを祈りたい人たちがこれだけ多く存在するんだ」という事実が多くの人々に認識され、「世界平和の祈り」の持つ光明力が見直されてまいります。つまり、唯一会の会員となることによって集団の中の自分となり、知らない間に「世界平和の祈り」を広める大きな働きをしていることになるのです。

一人の人間の力だけでは大きな仕事はできません。「世界平和の祈りだけを祈ってゆこ

う」と思っている人が全国にたくさん存在していても、それぞれ一人一人がバラバラで横のつながりがなければ、どんなに正しい生き方も世間に訴える力は弱いのです。「世界平和の祈り」を祈る人たちが一つの有機体のように集団化することによって、個人の力では為し得ない大きな社会的影響力を持つようになるのです。二つの磁石を一つにすれば、磁力は前よりも大きくなります。三つの磁石を合わせればさらに大きな磁力が発生し、磁場が変化します。それと同じように、人間も一人よりも二人、二人よりも三人と集団で「世界平和の祈り」を祈りますと、「世界平和の祈り」の霊力が強力に発揮されるようになり、強力な霊的磁場の発生によって、個人の魂の浄まりも急速に促進されることになるのです。

「世界平和の祈り」一本槍で生きる私たちの生き方に賛同して下さる方が日ごとに増えてきております。私たちの生き方を見下し、無視している人も、寝ても覚めても「世界平和の祈り」一念で生きている私たちの生き方は五井先生のみ心にも守護の神霊のみ心にも適った生き方であり、永遠の宇宙法則に正しく乗った生き方でもあることを何れは知るようになるでしょう。

「世界平和の祈り」だけを祈っている日本全国の皆さん、一人で祈っていないで、私たちとご一緒に心を合わせて祈りましょう。私たちの愛の祈りの力を結集しましょう。私たちが集まれば、日本の世論に影響を与え、世界を平和な方向へと動かす力が生まれるのです。他人の批判ばかりしていても始まりません。私たちが正しい生き方を示すのです。私たちが「世界平和の祈り」のパワーを発揮するのです。私たちが「世界平和の祈り」によってまず安心立命するのです。

「百知は一真実行に及ばず」。どんな知恵も知識も思想も行法も、「世界平和の祈り」という一つの真実の行には遠く及ばないのです。

質疑応答 2：白光真宏会と唯一会

白光真宏会と唯一会の関係

【ご質問-3】

私たちは唯一会に興味を持っている者です。白光真宏会のことを調べているうちに唯一会のホームページに行きつきまして、メールを送らせていただいた次第です。先日、白光真宏会の特命導師の方にお会いしてお話を伺う機会がありました。とても興味深いものでした。その後、唯一会の存在を知ることになったのです。つきましては、幾つか質問があるのですが、都合がよろしければ、ぜひお答えいただきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

質問1) 白光真宏会との関係はどのようなものなのでしょうか？ 唯一会の構成メンバ

一は白光真宏会にも所属しているのでしょうか？ 教義の明確な違いはありますか？

質問2) 唯一会を設立するに至ったそもそもの経緯とはどんなものだったのでしょうか？ (というのも、白光真宏会と違う組織を新たに立ち上げるには何か理由があつてのことなのかと考えたからです)

以上の幾つかの点について、ぜひご返答くださいますよう、よろしくお願い致します。

【お答え-3 (1-1)】

唯一会の主宰である私をはじめ、幾人かは白光真宏会の維持会員です。また、白光真宏会の会員ではなく、唯一会の会員だけになっている方々もいます。なお五井平和財団との関係については、私は五井平和財団のメンバーでもあり、唯一会として寄付をさせていただいたり、イベントに協力し参加させていただいております。五井平和財団では、一つの宗教宗派色を出さないように、五井先生の教えである「守護の神霊への感謝の祈り」の行を省いているのに対して、唯一会では、五井先生の教えをそのまま継承するために「守護の神霊への感謝の祈り」を含めた全文の「世界平和の祈り」を祈っております。

【お答え-3 (1-2)】

唯一会の教義は五井先生の教義『人間と真実の生き方』ですから、白光真宏会と全く同じと言えます。しかし、現在の白光真宏会は五井先生の教義に昌美先生の行法が加えられており、昌美先生の行法と比較しますと明確な違いがあります。現在の白光真宏会では次のような行法が指導されます。

- ①消えてゆく姿で世界平和の祈り
- ②光明思想徹底行
- ③地球世界感謝行
- ④我即神也、人即神也、人類即神也の宣言と印の行
- ⑤宇宙神マンドラ、光明思想マンドラ、地球世界感謝マンドラの行

このうち①だけが五井先生の行法でありまして、その他の②～⑤は昌美先生の発案による行法です。唯一会は①の「消えてゆく姿で世界平和の祈り」だけしか行じませんから、明確に違うと言えます。

【お答え-3 (2)】

私が五井先生の教えを悟ると同時に現在の白光真宏会の指導法の誤りを知り、昌美先生に私の進言を申し上げたのですが、残念ながら聞き入れられることなく無視されてしまいました。そこで、やむなく五井先生の教えを後世に正しく伝えるために新たに唯一会という組織を創ったのです。白光真宏会の方々は「五井先生の教えと昌美先生の教えは全く同一であり、矛盾してはいない」と主張されていますが、どう考えても、何度考えても、

私たちには五井先生と昌美先生の教えが同一の教えであるとは思えません。私たちには、五井先生の教えと昌美先生の教えが明らかに矛盾しているように思えてならないのです。矛盾しているどころか、昌美先生の教えは五井先生の教えに全く反しており、誤った行法と見えるのです。昌美先生を尊敬し愛する気持ちは誰よりも強いものがありますが、だからといって、五井先生の教えにまるで反した教えに五井先生の弟子の一人として従ってゆくわけにはまいりません。

人から言われるままに、何を言われようと、いつでも「はい、はい、あなたのお考えは正しいです」と答え、相手の言うままに行動していることは真の素直とは言えませんし、真の愛の行為とも思えません。昌美先生を愛するがゆえに、昌美先生の教えに誤りがあったら、自己保身のような小さな考えは捨てて昌美先生に率直に進言すべきだと思うのです。それが真の愛の行為であり、真の勇気であると思うのです。そうすることが五井先生へのご恩返しであり、五井先生の試練に対する答えでもあるのです。

以上の理由で、五井先生の教えを忠実に守り継承した唯一会を創立した次第です。

老子の教えは危険ではありません

【ご質問-4】

実は「唯一会は五井先生のみ教えのままでないのだなあ」と感じてしまいました。五井先生は「いま入っている宗教をやめなさい」とは一言もおっしゃっていらっしゃいませんでした。また、父は孔子愛好家で、家族中五井先生のみ教えの信徒でしたが、「老子は危ない」と、五井先生が老子さまのみ教えに惹かれるのを心配しておりました。また、父は戦争体験者でもあります。世界の戦争の発端が宗教の違いで起きたことを、そして今でも続いていることをとても悲しんでおります。

【お答え-4】

唯一会のどこが五井先生のみ教えのままでないと感じられましたか？ この点について、よろしければ教えて下さい。

なお、皆さんに誤解のないように説明しておきますが、唯一会は各人の自由な宗教観を尊重しており、「いま入っている宗教をやめなさい」とは一度も説いておりません。また、唯一会は世界の全ての宗教者と仲良くなることを望んでいる大調和の宗教団体でありまして、決して排他的宗教ではありません。

世界各地で宗教の争いから起きた戦争については私も悲しんでおります。宗教の対立をなくすためには、各宗派独自の固有名詞に把われないことが必要であると私は思います。

神様の名、仏様の名、宗派の名前の違いで争うのは馬鹿馬鹿しいことです。そこで私たちは、「世界人類が平和でありますように」の祈り言の一点で世界の宗教者が手を結び、心を結んで、世界平和を祈ることを勧めているのです。

宗教宗派を超えた真実の祈り言によって世界は平和になるのです。唯一会だけが世界を平和にすると申しているのではありません。世界の宗教者が古き伝統を守り生かしつつ「世界平和の祈り」を祈るようになり、自然に世界の宗教者の心が一つに融合されてゆくのです。唯一会はいつも心を広げて他の宗教団体の人々と調和することを望んでいるのであり、排他的宗教ではありません。世界の宗教者を含む世界人類の平和を祈っているのです。誤った宗教観から起きた過去の戦争を見て、「宗教は危険だ」と見るのは無理もありませんが、真実の宗教は安全であり、危険ではないのです。

なお老子の教えについては、消極思想の代表者であるかのように解釈して危険視している人がいますが、老子は自力行を否定して、天地に任せる他力行を説いているのです。その自力否定、他力肯定の教えが如何にも消極思想のように見られるのでありますが、他力行に徹した老子の思想は、消極的思想とか積極思想とかの自力の枠を遙か超えた、神力を発揮する自由無礙の思想であるのです。ですから、老子の教えは少しも危険な思想ではありません。老子は「世界平和の祈り」の救世の大光明の中で今も生き生きと皆さんを見守り、皆さんの幸福と世界の平和を祈って下さっているのです。

参考：神の示す道はただ一つ

「神になる方法として七つの方法があり、各人の好きな道を行けばよいのだ」と説いている宗教者がいますが、その考えは一見まともなようでいて誤っていると言わざるをえません。なぜ誤っているのでしょうか、分かりやすく説くことにいたしましょう。

学校や職業、住居、料理、服などを選択するのは、今さら言うまでもありませんが、各人の自由です。神道、仏教、キリスト教、その他の宗教、どの宗教を選択するかも各人の自由です。しかし、一つの宗教の中で、「七つの方法があつて、どの道を行っても神になることができるから、お好きな方法を選んでやりなさい」と説くのは、辻褄の合わない矛盾した論理であると言わざるをえません。

七つの方法を全て万遍なくやることによって悟れるというのであれば、その中の一つの方法だけでは不完全な方法であるということになります。もしその中に「世界平和の祈り」が含まれているのであれば、「『世界平和の祈り』は不完全な方法である」と、その人は婉曲ながら主張していることになるのです。これは五井先生の『世界平和の祈り』は完全な方法である」という教えに反することになります。「世界平和の祈り」は五井先生を通して神から授けられた祈りであるのですから、「世界平和の祈り」の完全性を疑い、完全性を否定することは、神の完全性を否定することで、天に唾する行為なのです。また、七つの方法のうち、どの方法を選んでも神になれるのであれば、七つの方法を全てやる必

要はないこととなります。富士山に登る道が七つあったとしても、最も易しい道は一つであるはずですが。実際に七つの登山道を登った体験を持つならば、先達としてはその最も易しい道を人々に教えるべきではないでしょうか。登山の素人の人々に危険な登山ルートに行くように勧めるべきではありません。易しいルートを教えず、危険なルートも一緒にたに説くことは愛のない教え方と言えます。

実際に自分が七つのルートを登山した上で「どの道も同じである」と言うならばまだしも、頂上を一度も見極めていない人が推測で七つのルートを後輩に教えたら危険極まりないこととなります。それと同様に、実際に七つの方法で神性を開発した体験がないのに、「この七つの方法をやれば神性を開発できる」と、推測であるにも拘らず自信たっぷりに神性顕現法を教えている宗教者がいます。その宗教者自身が神我一体を体験したわけではないのですから、当然その宗教者の教えを信じて従う信徒たちも道に迷うこととなります。宗教指導者の発言は、自分一人だけでなく多くの人々の運命をも左右するのですから、憶測で道を説いたら飛んでもないこととなります。指導者は責任を持って発言するようになければなりません。また信徒の側も、指導者の言葉を何もかも鵜呑みに信じないで、一度常識的な目で見直すようにするとよいのです。「私は神である」と宣言していた宗教者が、兵器で武装して、調査にきた警官たちと烈しい銃撃戦をした後、集団自殺をした例も外国にはあるのですから、真理の言葉を宣言をしているからといって、うっかりその指導者を信用してはならないのです。

現在のように毎日の生活が多忙な私たちにとって、七つの行をやらなくとも一つの行だけで救われるならば、それに越したことはありません。複雑多行よりも単純一行の方が簡単容易であるのは決まっています。それなのに、なぜ幾つもの行法をやろうとするのでしょうか。それはその行法をやる人が迷っているからなのです。どれがよいのか迷っているのです。どの道がよいのか、どの行法がよいのか迷っているから、心が不安でしょうがないから、あれもこれも試したくなってくるのです。

南無阿弥陀仏も「世界平和の祈り」も原理は同じであるのですから、南無阿弥陀仏を行じて救われることはできます。しかし、現代人の多くの人々にとってどちらが易しいかと言えば「世界平和の祈り」であると教えることは自然な愛の心の発露でありまして、南無阿弥陀仏の行を軽んじることにはなりません。数百年前の漢語表現の祈り言よりも、現代の日常語の表現の祈り言の方が現代人にはぴったり合うのは当然ではありませんか。現代には現代の祈り言があるのです。では「世界平和の祈り」も百年後には役立たなくなるかと言えば、そうではありません。「世界平和の祈り」は人類史上において最初で最後、神から授けられた完成した祈り言でありまして、この祈り言は永遠に続くのです。

学生は一日の大半を勉強しなければなりません。サラリーマンは朝から晩まで仕事をしなければなりません。家庭の主婦も、炊事や洗濯、家事、育児にと忙しい毎日です。宗教の行法だけに一日中費やしている時間はありません。現代人に必要なのは、短い時間で出来る易しく簡単に救われる道であるのです。

宗教の行法においても単純化する必要があるのです。その答えは既に出ているのです。「世界平和の祈り」の一行で私たちは救われます。人類も救われるのです。その信念で一心決定（けつじょう）しなければなりません。「世界平和の祈り」に折角つながりながら、今さら「他にもっとよい方法はあるのではないか？」と迷ってはいけません。「世界平和の祈り」以上により方法は永遠に見つかりません。「世界平和の祈り」をしていれば、神性は開顕され、人類は平和になるのです。世界が平和になること以上に大きな目標が一体あるのでしょうか。人類にとって世界平和ほど大きな目標はないではありませんか。その最大の目標を祈り言にしているのですから、「世界平和の祈り」以上の祈り言はありません。

神は「人類を苦しめよう」とは思っておりません。神は「人類に難行苦行をさせよう」と思っておりません。神は「七つの行法をしなければ救われぬぞ」とはおっしゃっていません。神は『「世界平和の祈り」さえしていれば人類は救われるのだ』とおっしゃっているのです。「世界平和の祈り」以外の、役に立たないつまらぬ行法に貴重な時間を費やしてはいけません。肉体知で考え出した浅知恵に翻弄されている時ではありません。今こそ人類は、「世界平和の祈り」に全精神、全気力を尽くすべき時なのです。「世界平和の祈り」に心を統一した時、私たちは本心の偉大なる力を発揮させることができます。「世界平和の祈り」に人類の心が統一された時、世界平和実現という史上最大の超奇蹟が起きるのです。

質疑応答 3：五井先生のみ教えを今こそ実行しよう！

求道する老婦人からのお便り

71 歳になるご婦人から私宛にこのような丁寧なお葉書をいただきましたので、紹介しましょう。

《前略 御免下さい。突然お便りいたしましてすみません。先日ある友人からの話で唯一会のある場所を教えられました。私は白光の会員になって十三年と少し、色々悩みながら、一応決められた事柄を消化して来ましたが、近頃少々矛盾を感じ出し、色々な先輩諸氏にお尋ねしてみました。しかし、これといって確かな手応えも得られぬままに今日まで過ごして参りました。

五井先生の存在、み教えを、素直に自分の人生と併合して生きてゆきたいのですが、目下、これだ！！という方法が判りません。申し訳ないのですが、都内か近郊で森島様のお話を伺えるチャンスがあれば、お教え頂きたいのです。Eメールはできませんので、FAXでも葉書でも結構ですが、ご連絡頂ければ幸いです。不躰な願いで申し訳ありません。よろしく願いいたします。》

一つの宗教を十年以上信仰しても、今もなお確信が得られない。安心立命への希望が湧いてこない。これは信仰する人の上根下根というよりも、その宗教が正しい教えではないか、或は正しい行じ方をしていないかのどちらかであるのです。現在の白光真宏会は、初代の五井先生の教えと二代目の昌美先生の教えとが背反するものであるのですから、矛盾を感じるのも無理はありません。矛盾と感ぜない人は、思考力が弱い人か、昌美先生をひたすら信じようとして、二つの教えの矛盾を無視しようとしている人なのです。それにしても、白光真宏会の会員として真面目に十年以上信仰しながら、しかも老齢の身になって真実の道を発見できぬ苦しさはいかばかりかとお察しいたします。安心立命という大悟はできなくとも、「この道は正しいのだ。この道を行けばいいんだ」と不動の確信を持ってさえすればそれで充分なのですが、その真実の道がつかめずに苦しんでいるのです。

「世界平和の祈り」という安心立命への大道が直ぐそばにあるのに、多くの方は気がつかないのです。それは白光真宏会の現在の指導者である昌美先生が余計な教えを説き過ぎたことに原因があるのです。五井先生と異なった教えを説きたいならば、或は『世界平和の祈り』よりも『人類即神也』の印の教えの方が優れている」と思うならば、白光真宏会の会長という地位を潔く捨てて、新しく「人類即神也」の教えを中心とする昌美教団をお作りになったらよいのです。そして、昌美先生を信奉する人は昌美先生に従って行ったらよろしいのです。それなのに、五井先生の教えの上にご自分の教えを加えるから、正しい教えと誤った教えがごちゃごちゃに混じってしまい、矛盾だらけになってしまっ、信徒の立場から見ると訳が分からなくなってしまい、迷ってしまうのです。

「世界平和の祈り」は完全な祈りであり、完全な方法であるのです。完全な祈りであるがゆえに、付け足す行法は何もないのです。「世界平和の祈り」を祈り続けてゆきさえすれば、個人も人類も真の救いを体得できるのです。私たちは神様から授けられた「世界平和の祈り」の光明力を疑うことなく信じ続けてゆかねばなりません。「世界平和の祈り」に全託した時、私たちは深い深い安心感を授けられます。それはちょうどスイカを食べればスイカの味が分かり、リンゴを食べればリンゴの味が分かるように、靈感のない人でも「世界平和の祈り」を祈れば大光明を何となく感じる事ができるのです。

肉体の頭で考えても考えても分からなくなったら、肉体の頭で考えるのを一度やめてしまい、自分の直観で判断したらよいのです。「『世界平和の祈り』よりも優れた方法があるだろうか？」という問題を、頭の理屈で考えるのではなく、直観的に答えを出してみるのです。

想いを鎮めて、理屈を捨てて、素直な直観力で判断すれば、「『世界平和の祈り』が一番優れている」という答えが自ずと出てくるはずです。その答えは本心からの声であり、守護の神霊からの答えであるのです。「世界人類が平和でありますように」と私たちが祈りますと、救世の大光明の中へと全ての想いがスーッと吸い込まれてゆきます。「世界人類よ、平和であれ」と願う大神様のみ心の波動と私たちの心がピッタリと一つになってゆくのが分かります。神我一体になろうと思わずして、知らぬ間に神我一体化してゆくので

す。そうしておりますと、不安や悲しみや悩みがいつしか消え去ってゆくと同時に、私たちの神性が輝いてきて、愛と感謝に満ちた明るい人間になっている自分を発見するのです。そして、「世界平和の祈り」によって救われた人々は、往相から還相の心境になり、「世界の人々を救おう」と立ち上がり、世界各地へと「世界平和の祈り」を普及する旅に出かけるようになるのです。既に五井先生のみ教えをしっかりと理解し、日々「世界平和の祈り」に全託している皆さんは、「世界平和の祈り」の先達であり、世界を平和にする天使であるのです。お便りを下さった老婦人も、唯一会に入り、五井先生のみ教えを学び直し、「世界平和の祈り」によって救われることでしょう。

五井先生のみ教えを今こそ実行しよう！

先日紹介したご婦人のNさんと電話でお話したところ、昌美先生への疑問について幾つかお話下さいました。また、唯一会へのご質問もいただきました。

【ご質問-5】

質問1) 「日本にもう二度と地震はない」と昌美先生は断言したのに、現実には地震があるではないか？

質問2) 「2000年ちょっとで世界は平和になる」と昌美先生は断言したのに、現実の世界はまだまだ平和になる兆候は見られないではないか？

質問3) 「私は2000年で引退して、2001年からは娘を後継者とする」と昌美先生は言っているが、二十歳そこそこの娘を指導者としてついてゆく気持ちにはなれない。昌美先生は最後まで責任を完うするべきではないか？

質問4) 「みたま祭」をなぜ「世界の歴史の浄め祭」にしたのか？ 「世界平和の祈り」を一度もしないでは先祖のみたまは清まらないし、歴史の浄めにもならないのではないか？

質問5) 昌美先生を後継者にしたのは五井先生であるから、昌美先生に従ってゆくべきか？

【お答え-5】

始めに唯一会についてのご質問にお答えしておきましたが、唯一会に入会するために白光真宏会を脱会する必要はありません。白光真宏会の会員でなければ、白光真宏会に進言しても耳を傾けてはもらえません。白光真宏会を善くしようと思ったら、白光真宏会に会員としてとどまって内部から変えてゆかねばなりません。白光真宏会会員1万人が唯一会会員であれば白光真宏会を変えることができます。なお、1～4の昌美先生への疑問は昌美先生が答えるべきことで、私が答えることではないと思います。予言が当たろうと当たるまいと、後継者が二十歳であろうとあるまいと、先祖のためのみたま祭を世界規模のみたま祭にしようとしまいと、「そんなことはどうでもよい」と私は思うのです。

また、5の質問については、「法に従うべきで、人に従うべきではない」とお答えしておきました。昌美先生が宇宙の法に適ったことを説いているならば昌美先生に従ってゆけばよろしいのですが、もしも昌美先生が宇宙の法に外れてしまい、五井先生のみ教えに反

した教えを説いてしまったら、昌美先生に従うべきではありません。如何に五井先生が定めた後継者であろうと、誤りは誤りとして認めて、五井先生の正しいみ教えを守らねばなりません。これは私たちに課された神の試練であるのです。

一番大事なことは五井先生のみ教えを理解することであり、「世界平和の祈り」を祈るか祈らないか、なのです。「世界平和の祈り」以外の昌美先生の提唱している行法（我即神也、人即神也、人類即神也などの真理宣言行、光明思想徹底行、非光明思想消滅行、願望成就行）が誤りであるという真実を知らねばならないのです。これこそが一番知らねばならぬ大事なことであるのです。

昌美先生の誤りには枝葉の誤りと根本的誤りがあるのですが、枝葉の誤りにだけ注目するのではなく、もっと根本的な教えの誤りについて注目し、五井先生の正しい教えを理解してゆく必要があるのです。そして、昌美先生の誤りもまた消えてゆく姿と見て、不平不満の想いを持ったり、いたずらに怒ったりしてはなりません。全ての誤りは完全な正しい姿が現れるための一時的な現象であるのですから、人の誤りも消えてゆく姿と見て、「世界平和の祈り」の中に投げ入れてゆかねばなりません。人の誤りや人の悪を掴んでしまったら、やはり自分の心をも乱すことになり、自分の心も汚れてしまいます。私たちは五井先生に教えられたように、昌美先生を含む全ての人の過ちを消えてゆく姿として見て、ひたすら「世界平和の祈り」の中に入ってゆく必要があるのです。五井先生のみ教えを実行するのは私たちであり、今こそ五井先生のみ教えを実行する時であるのです。